

放射線画像検査の一般核医学検査についてご案内

骨シンチ、心筋シンチ、甲状腺シンチなど核医学検査についても地域医療連携部にて予約申し込みを承ることとなりました。

核医学検査は放射性医薬品を投与してその分布を画像化することにより診断する検査です。現在、利用できる検査薬品の種類は多岐に亘っております。

最も数多く行なわれています全身骨シンチは骨の転移病変の有無や部位を容易に知ることができます。甲状腺TIシンチは甲状腺腫瘍の良悪判別、全身MIBGシンチは副腎髄質由来の悪性腫瘍の診断に欠かせない検査方法として利用されています。

核医学検査では臓器への薬品の取り込み速度を観察することにより、生理的機能や血流の異常が評価できます。

この特徴を生かして、脳血流ECDシンチによる認知症の早期診断、心筋シンチによる心筋血流低下の部位判定、肺血流(MAA)シンチによる肺塞栓症の有無、唾液腺シンチによる唾液腺の分泌低下、甲状腺Tcシンチによる甲状腺の機能亢進や機能不全、肝アジアロ(GSA)シンチによる肝臓の機能低下、腎レノグラム(MAG3)による水腎症や腎臓の血流と尿生成の異常、副腎皮質シンチによる副腎皮質腺腫の機能亢進などが判定できます。

治療後のシンチ検査によって効果判定や再発の有無の評価にも活用されています。

投与する放射線による患者の被曝量はCTと同程度かそれよりも少なくなるように考慮されており、医学的な影響を惹き起こす量ではありません。

核医学検査の副作用は、2005年度の日本全国での放射性医薬品の投与件数126万人に対して、19件の報告がありましたが、顔面紅潮、悪心、皮膚発赤、重篤なものはありませんでした。動悸、発汗などであり、重篤なものはありませんでした。

このような核医学検査の特徴・利点を活用して、先生方の日常診療に役立ててくださるよう関西医科大学附属病院の地域医療連携部の御利用を宜しくお願いいたします。

なお、検査申込につきましては、裏面『放射線科画像検査申込票 シンチ用』と従前の患者保険情報連絡票を標記FAX番号に送信いただけましたら結構でございます。

平成20年12月

関西医科大学附属病院